

## 研究指導 博士後期課程

大学院では博士論文までの研究指導の進め方が最も重要であると考えている。研究指導教員の決定については主に以下のようなプロセスを経ている。入学前指導を含めての流れは以下の通りである。

- 1 入学試験時における入学志願者調書の「入学後の研究について」「希望する指導教員名（第一希望）（第二希望）」「研究計画」等を記載することになっているため、第一希望になっている指導教員は面接官となり、実際に受験者に研究の内容について確認等を行う。なお、受験者が武蔵野学院大学在学者でない場合には、未記入の場合もあり、この場合には研究計画により指導可能な教員が面接官として対応する。
- 2 入学前指導の一環として日本に滞在している入学許可者で春入学予定者には 2 月の研究発表会、秋入学予定には 7 月の研究発表会の案内を行っている。研究発表会に出席した入学予定者には入学後のイメージをより固めてもらい、希望する研究指導教員ともさらに研究内容を確認してもらおう機会となっている。
- 3 入学前指導の一環として合格者には入学手続きが完了し、入学許可書の発送後に、「研究計画書」（0 号様式）に再度研究計画を提出してもらい、研究内容の確認を行っている。また、受験時の面接において、研究内容が曖昧な場合においても同様としている。
- 4 入学時のオリエンテーション期間中に研究内容に変更がないかどうかを確認するため、希望する研究指導教員が面接を行う。研究内容に変更がある場合には、院生と相談の上、他の教員とも面接を行う。「研究計画書」（0 号様式）においても希望する研究指導教員が未記入の場合には、研究テーマや研究計画を指導できる教員が面接を行う。このような場合には教務部長及び研究科長が相談の上、面接者を指名する。
- 5 入学後の面接の結果により、研究科委員会において審議の上研究指導教員を決定する。

研究指導教員は博士論文の提出においては重要な役割を果たすため、院生が納得して指導を受けるように慎重を期して決定している。

研究指導教員の決定後は概ね以下のようなプロセスを経て、博士論文の提出ができるように指導を行っている。

（博士後期課程 1 年次）（春入学者）

- 4 月～5 月 希望する研究分野、研究指導教授名を研究科委員会に提出。  
研究科委員会は、院生の申請に基づき研究分野及び研究指導に適した研究指導教授 1 名を決定。  
研究指導教授は、院生の研究に直接必要とする授業科目や教育研究者として重要な科目の履修指導を実施。

- 5月中旬 院生は、研究指導教授の指導に基づき、研究テーマ・研究計画を決定し、3年間の計画とその1年目の計画を立案し、提出する。
- 6月～1月 研究指導教授は、研究方法、文献検索の方法、文献精読等により研究計画に沿った指導を行う。
- 7月下旬 1回目の公開研究中間発表会実施。公開研究発表会の結果を受け、そこで示された問題点、課題について整理、検討。問題意識と研究の方向性を確認。研究の方法論、調査方法について検討する。文献の講読を行う一方、院生による研究報告の内容を検討し、問題意識と研究の方向性を確認し、研究の方法論、調査方法について指導する。
- 2月中旬 2回目の公開研究中間発表会実施。公開研究発表会の結果を受け、そこで示された問題点、課題について整理、検討。問題意識と研究の方向性を確認。研究の方法論、調査方法について検討する。文献の講読を行う一方、院生による研究報告の内容を検討し、問題意識と研究の方向性を確認し、研究の方法論、調査方法について指導する。
- 2月下旬 研究報告書を提出

(博士後期課程2年次)(春入学者)

- 4月～3月 本格的な研究資料の収集、整理等、研究活動の遂行。研究指導教授は、研究の進捗を確認すると共に、文献精読、調査等の指導を行うと共に研究遂行に関する全般的な指導、研究成果のまとめ方を指導。
- 5月中旬 院生は、研究指導教授の指導に基づき、2年目の研究テーマ・研究計画を決定し、提出する。
- 7月下旬 3回目の公開研究中間発表会実施。  
1回目及び2回目の公開研究中間発表を受け、研究の進捗状況が明らかになるように発表を行う。発表に関する助言等を受けさらに研究内容を充実させる。
- 2月中旬 4回目の公開研究中間発表会実施。  
1回目から3回目の公開研究中間発表を受け、博士論文に向けての進捗状況についてその方向性があきらかになるような内容として発表する。
- 2月下旬 研究報告書を提出  
3年目に博士論文の提出ができるかどうか、院生と研究指導教員は確認し、4月上旬の博士論文提出資格審査用の申請書を提出について検討する。

(博士後期課程3年次)(春入学者)

- 4月初旬 院生は研究指導教授の承認を得て、研究科委員会に最終的な博士論文の論題等を含めた博士論文提出資格審査用の申請書を提出。研究科委員会は、博士論文の論題提出者の論文提出資格審査を実施し、その結果を当事者に通知する。
- 5月中旬 研究科委員会は、博士論文審査に関わる主査1名、副査2名を選出し、博士

論文審査委員会を設置し、申請者に通知。研究指導教授は審査委員には原則、加わらない。4月初旬に博士論文の論題等を含めた博士論文提出資格審査用の申請書を提出しなかった場合には、院生は研究指導教授の指導に基づき、3年目の研究テーマ・研究計画を決定し、提出する。

- 7月中旬 5回目の公開研究中間発表会実施。博士論文提出に向けての進捗状況について報告する。主査及び副査は今後の審査に向けて、適切な助言を行う。研究指導教授は主査及び副査の助言等を受け、博士論文提出に向けて、指導を行う。
- 10月中旬 6回目の公開研究発表会実施。博士論文提出予定者として発表を行う。博士論文の全体像が分かるように発表を行う。主査及び副査は出席し、その発表状況を審査資料とする。研究指導教授は主査及び副査の助言等を受け、博士論文提出に向けて、最終的な指導を行う。
- 12月初旬 研究科委員会に博士論文を提出する。主査、副査による博士論文審査を開始。  
博士  
論文提出後、研究指導教授は最終試験（口頭試問）に向けての指導を行う。
- 2月中旬 論文審査委員会は、博士論文の審査と共に、その論文内容及び専門領域に関する最終試験（口頭試問）を実施。その判定結果を研究科委員会に報告する。
- 3月上旬 研究科委員会は、論文審査委員会の報告に基づき、博士課程（後期）修了の可否を判定する。
- 3月中旬 学位授与式にて学長より博士（国際コミュニケーション）を授与する。

※秋入学者の場合は、4月を10月、5月を11月、6月を12月、7月を1月、8月を2月、9月を3月、10月を4月、11月を5月、12月を6月、1月を7月、2月を8月、3月を9月と読み替えて指導。

なお、修了要件に必要な単位を取得したが、博士論文を提出しない等の今後の対応については『履修の手引き&博士論文に関する要項』を参考のこと。また、『研究倫理&研究費の適正使用のためのハンドブック』『研究倫理&論文執筆の指針[大学院生向け]』『学識を教授するために必要な能力を養うための機会の設定又は当該機会に関する情報提供（プレFD）』は大学院HPに掲載しているので適宜活用してください。

各教員による研究指導の詳細な内容についてはシラバスを参照のこと。